



俳句

横山容子選

これからが夏の本番気力張る

立石寺萩の枝垂るる石佛

八堂山に黒雲の湧く戻り梅雨

太陽を背にし向日葵咲くもあり

戦争を知らぬ子等増え原爆忌

向日葵に元気を貰ふ誕生日

蝉の声耳をつんざく大合唱

無住寺の塀上り詰め蝸牛

越智幸子

渡部喜生

真鍋正利

三好清信

大森妙子

越智富美子

今井嘉太郎

高橋和

川柳

平尾忠文選

不服など言うまい梅雨の街歩く

元氣かね声かけた人どなたやら

楽しもうゴウヤも今を生きている

娘には甘い父でも母につく

減量を夢見て歩く方歩計

田に水が入り蛙ののど自慢

病む人の願いを込めて笹に付け

貧しくも粋な気持で生きていく

菅正子

高塚フミ子

川又三恵子

塩見真由美

神尾禮子

木原恵美子

三好清信

尾崎康博

短歌

藤田虎雄選

あの春の乙女の笑みや白き花 薫れよせめて
老いゆく胸に 今井嘉太郎

ソラマメは下向きになれば食べ頃と米寿の母
の真似してちぎる 真鍋生朝子

味噌大豆植うる炎天の草仕末 出来るかと問
う夫の心配 森本郁子

雨の中 命の限りに熊蝉の鳴く声太く自己主
張する 伊賀和子

梅雨明けを報じし今朝の猛暑かな くま蟬も
鳴く暑さ増してや 元山莊一郎

しっかりと立てよと我が足に言い聞かせ炎天
の中 踏み出す一步 高橋容子

わが命終る時まで逝きし息の思い出は胸に消
ゆる事無し 森田薫

N響がはねて夜汽車にとび乗れば漁火またた
く海迫り来る 坂根祐子

俳句・川柳・短歌 作品募集

作品は、読みやすい書体で作成し、俳句・川柳・短歌の別を書き、漢字にはふりがなを振り、住所・氏名・電話番号を明記し、毎月1日までに郵送または提出してください。

応募先 〒793-8601 明屋敷164

西条市役所 広報広聴課 広報係

TEL 0897-52-1204 (直通)

ふるさと産品通信

加茂川を代表する魚

アユ



清流加茂川にはさまざまな魚が生息していますが、加茂川を代表する魚といえば「アユ」です。

西条地域のアユの産卵期は10月ごろです。ふ化した稚魚は海や河口域（古川辺り）に下り、体長5～8cmまで成長した後、4月～5月ごろ川の遡上を開始します。その後は成長のスピードが増し、2～3カ月で体長20cmを超えるようになります。ただ、アユの一生は短く、上流域に遡上して産卵し子孫に命をつないで、その一生を終えます。（単年魚）

加茂川におけるアユ魚は古くから盛んに行われ、地元を代表する魚として、市民に親しまれてきました。漁期は6月～12月で、引網やすくい網などの網漁のほか、友掛けと呼ばれる釣りによる漁で捕獲されます。

加茂川のアユは少々小ぶりながら味は絶品と評価も高く、自家消費用に捕獲されることが多いですが、一

部は直販所の水都市などでも販売されています。

近年は、その絶品のアユを求めて市外や県外からの遊漁者も増加し、ちょっとした観光体験スポットにもなっています。毎年7月末に行われる引き網漁の解禁は、夏の夜を飾る風物詩としても有名です。

近年、地元の内水面漁業協同組合ではその大切な資源を確保するため、加茂川や中山川で稚魚の放流事業が行われているほか、遊漁禁止区域を設け、保護育成に向けた取り組みも実施しています。

淡水魚の王様とも呼ばれるアユ。清流にしか住まないといわれるこの地域資源を今後も大切にしていきたいですね。

